

令和2年度千葉大学大学院
医学薬学府
修士課程（10月入学）
学生募集要項

医科学専攻
総合薬品科学専攻

令和2年6月

千葉大学

千葉大学大学院医学薬学府 修士課程学生募集要項

(令和2年10月入学)

1. 募集人員

専攻名	募集人員
	令和2年度10月入学
医科学専攻	若干名
総合薬品科学専攻	若干名

2. 出願資格

- (1) 大学（学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条に定める大学をいう。以下同じ。）を卒業した者及び令和2年9月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者及び令和2年9月までに学士の学位を授与される見込みの者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び令和2年9月までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び令和2年9月までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び令和2年9月までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び令和2年9月までに学士の学位に相当する学位を授与される見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であること。その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (9) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本学府において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- (10) 令和2年9月までに次の各号の一に該当する者であって、本学府の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの
 - ① 大学に3年以上在学した者
 - ② 外国において、学校教育における15年の課程を修了した者
 - ③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者
 - ④ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (11) 本学府において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達したものと及び令和2年9月までに22歳に達するもの

注：出願資格(9)、(10)、(11)により出願しようとする者については、3ページ「5. 出願資格の審査・認定」を参照してください。

3. 出願手続

(1) 出願受付期間

令和2年7月21日（火）から7月27日（月）まで（土日祝を除く。）

郵送の場合、最終日17時までに必着とします。必ず簡易書留とし、封筒の表に「医学薬学府修士課程入学願書在中」と朱書きしてください。

持参の場合、受付は9時から17時までとします。（12時から13時までを除く。）

どちらの場合も受付期間内に到着しない場合は、受理しません。

注：応募に際しては、あらかじめ主たる指導を希望する指導教授に必ず照会の上出願してください。

(2) 願書提出先

千葉大学亥鼻地区事務部学務課大学院係 〒260-8675 千葉市中央区亥鼻1-8-1

4. 出願書類等

志願者は下記の書類等を提出してください。

出 願 書 類 等	摘 要
①入学願書	本大学院所定の用紙。必ず裏面の貼り付け欄に検定料の振込証明用「貼付用（大学提出用）」をのり付けしてください。
②写真票・受験票	本大学院所定の用紙
③検定料（30,000円） 右記のとおり振込となります。	●日本国内在住の志願者 出願前に本募集要項の指定用紙（振込依頼書）にて銀行等（ゆうちょ銀行を除く。）で振り込んでください。（自動振込機は使用せず、必ず窓口で振り込んでください。）振込手数料は本人負担となります。 また、「領収書（保管用）、振込証明用（貼付用）」は金融機関から受領した際に必ず取扱金融機関の出納印を確認の上振込証明用「貼付用（大学提出用）」を願書裏面の貼り付け欄にのり付けしてください。 なお、外国人志願者のうち日本政府（文部科学省）国費外国人留学生は不要です。 ●海外在住の志願者 この募集要項に添付された所定用紙の「振込依頼書」は、日本国内の銀行のみ使用可能です。日本国内に知人等がいない場合は、クレジットカード決済により、検定料30,000円の払込手続をしてください。なお、検定料の払込手続きは出願前に済ませてください。 (1) 千葉大学ホームページ（http://www.chiba-u.jp）の＜受験生の皆様へ＞にアクセスし、＜入試案内＞→＜海外からの検定料支払い＞により検定料払込手続を行ってください。 (2) 検定料の払込手続終了後、千葉大学より申込内容確認のメールが送信されます。内容を確認後、そのメールを大学院係へ転送してください。 注1. 入学願書の裏面にある「検定料納入方法」の「クレジットカード決済」欄にチェックを入れてください。 注2. クレジットによる検定料の払込手続き期間は、令和2年6月22日（月）～7月27日（月）までです。なお、出願書類を提出する前に払込手続きをしてください。 注3. 利用できるクレジットカードの種類については、検定料払込手続の際にホームページで必ず確認してください。 ※いったん納入した検定料は原則として返還しませんが、検定料を誤って振り込み、出願しなかった者が令和3年3月31日（水）までに所定の返還手続を行った場合は、検定料の全額を返還しますので、大学院係に確認してください。
④卒業（見込）証明書	出身大学（学部）長が証明したもの。
⑤成績証明書	出身大学（学部）長が作成したもの。 2. 出願資格(3), (4), (5), (6)及び(10)の②～④に該当する者は、成績証明書及び「学位記」の写しを提出してください。
⑥学位授与証明書	2. 出願資格(2)に該当する者で、大学改革支援・学位授与機構が証明したもの。

出 願 書 類 等	摘 要
⑦学位授与を申請する旨の証明書	2. 出願資格(2)に該当する者で、短期大学長又は高等専門学校長が証明したもの。
⑧写真 (受験票・写真票貼付用2枚)	上半身、正面、脱帽のもので、縦4cm×横3cm、出願前3か月以内に撮影したもの。
⑨受験票送付用封筒	長型3号封筒(23.5cm×12cm)に郵便番号、住所、氏名を明記し、郵便切手(84円分)を貼り同封してください。
⑩履歴書(外国人用)	本大学院所定の用紙(出願資格審査時に提出済の場合、再提出不要。)
⑪住民票 (外国人志願者のみ)	市区町村長が交付したもの。(在留期間、在留資格が明記してあるもの。) なお、外国人登録をしていない者は、提出不要。
⑫パスポートの写し (外国人志願者のみ)	氏名等が記載されているページの写し。
⑬TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP Level 1, TOEIC 公開テスト(L&R), TOEIC-IPのスコアカードの写し (総合薬品科学専攻志願者のみ)	平成29年4月1日以降に受験した、TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP Level 1, TOEIC 公開テスト(L&R), TOEIC-IPの成績が記載されたスコアカードの写しを提出してください。もし、出願期間に間に合わなかった場合には、大学院係に確認してください。 なお、受験していない場合は、「TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP Level 1, TOEIC 公開テスト(L&R), TOEIC-IPを受験しなかった旨」を記載したもの(様式任意)を提出してください。
⑭入試関係通知書等受取先住所シール	本大学院所定の用紙(出願資格審査時に提出済の場合、再提出不要。)

5. 出願資格の審査・認定

2. 出願資格(9), (10), (11)により出願しようとする者については、次のとおり出願資格の審査・認定を行います。

(1) 提出書類

提 出 書 類	摘 要
入学試験出願資格認定申請書	本大学院所定の用紙
出願資格認定申請用研究業績調書	本大学院所定の用紙(該当する場合のみ)
成績証明書	出身学校(学部)長が作成したもの 外国において学校教育における15年の課程を修了した者は、成績証明書及び卒業証明書
出身学校(学部、学科等)規程	卒業に必要な授業科目・単位数のわかるもの
履歴書(外国人用)	本大学院所定の用紙
入試関係通知書等受取先住所シール	本大学院所定の用紙

(2) 提出期間

令和2年7月6日(月)から7月8日(水)まで

郵送の場合、最終日17時までに**必着**とします。必ず簡易書留とし、封筒の表に「医学薬学府修士課程出願資格審査書類在中」と**朱書き**してください。

持参の場合、受付は9時から17時までとします。(12時から13時までを除く。)

どちらの場合も受付期間内に到着しない場合は、受理しません。

(3) 提出先 願書提出先とします。

(4) 審査及び認定提出書類により審査し、認定します。

(5) 審査・認定の結果は、令和2年7月17日(金)までに本人宛通知します。

6. 選抜方法及び期日

選抜は、学力検査（面接を含む）、成績証明書等を総合して行います。

(1) 医科学専攻志願者

① 学力検査期日及び科目

期 日	学 力 検 査 科 目	時 間
令和2年8月18日（火）	専門科目（主たる指導を希望する指導教授の専門科目（研究領域）は別表「指導教授別研究テーマ」を参照してください。）	10：30～11：30
	英 語（医科生命科学英語）	13：30～15：00
	面接試験	15：30～

各学力検査科目の配点を下表のとおりとし、得点がそれぞれ基準点に満たない科目があった場合には、不合格となります。

学力検査科目	配点
専門科目	100
英 語 （医科生命科学英語）	200
面接試験	100

② 学力検査及び面接場所 千葉大学亥鼻キャンパス

(2) 総合薬品科学専攻志願者

① 学力検査期日及び科目

期 日	学 力 検 査 科 目		時 間
令和2年 8月11日（火）	基 礎 科 目※ （物理化学2題，有機化学2題， 生物化学2題から試験場で2題 選択する。）	物 理 化 学 有 機 化 学 生 物 化 学	10：00～11：30
	面 接		13：00～

各学力検査科目の配点を下表のとおりとし、得点がそれぞれ基準点に満たない科目があった場合には、不合格となります。また、研究領域によっては、受入人数の関係で不合格となることがあります。

学 力 検 査 科 目	配 点
外国語（英語） （TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP Level 1, TOEIC 公開 テスト（L&R）, TOEIC-IPのスコアを100点に換算）	100
基礎科目	200
面接試験	100

② 学力検査及び面接場所 千葉大学亥鼻キャンパス

※令和3年8月（予定）実施の選抜（令和3年10月入学，令和4年4月入学）から，基礎科目の内訳を以下のとおり変更します。

基 礎 科 目	基礎生物・基礎化学（必須）
（物理化学，有機化学， 生物化学は試験場で1題を 選択する。）	物 理 化 学（選 択）
	有 機 化 学（選 択）
	生 物 化 学（選 択）

7. 合格者発表

令和2年9月7日（月）13時

薬学部掲示板（医薬系総合研究棟Ⅱ）に発表するとともに、合格者には合格通知書を送付します。

8. 注意事項

- (1) 入学試験に関する詳細については、医科学専攻は令和2年8月17日（月）10時に、総合薬品科学専攻は令和2年8月10日（月・祝）10時に、それぞれ薬学部掲示板に掲示します。
- (2) 出願書類に不備がある場合には、受理しないことがあります。
- (3) いかなる理由があっても、出願手続き後の書類の変更、受理した出願書類の返却及び検定料の返還はしません。
- (4) 車での来学はできるだけ避けてください。
- (5) 入学願書等に虚偽の記載をした者は、入学後であっても入学の許可を取り消すことがあります。
- (6) 電話等による可否の問合せには一切応じません。
- (7) 入学者選抜の過程で収集した個人情報が入学者選抜の実施のほか、管理運営業務、修学指導業務、入学者選抜方法等における調査・研究に関する業務等を行うために利用します。

9. 入学手続

- (1) 入学手続期間：令和2年9月18日（金）
- (2) 入学手続場所：亥鼻地区事務部学務課大学院係
- (3) 入学手続の際に納入する経費

入学手続の際には、次の経費が必要です。

入 学 料	学生保健互助会費	学生教育研究災害傷害保険料 (学研災付帯賠償責任保険含む)	合 計
282,000 円	2 年分 4,000 円	医科学専攻 2 年分 2,750 円	288,750 円
		総合薬品科学専攻 2 年分 2,430 円	288,430 円

(注) 1 入学料の納入については、入学手続時に納入願います。

2 授業料の納入については、入学後の後期分授業料は11月に、前期分授業料は4月に口座引落としにより納入願います。口座引落し手続等についての詳細は入学手続の際に改めてお知らせします。

なお、前期分・後期分授業料はそれぞれ321,480円（年額642,960円）です。また、入学して2年目から、後期分授業料は10月が口座引落としの月となります。

3 入学料及び授業料等の改定が行われた場合には、改定時から新入学料及び新授業料等が適用されます。

4 入学料及び授業料が免除される制度があります。

詳細は、千葉大学ホームページ

<http://www.chiba-u.jp/campus-life/payment/exemption.html>をご覧ください。

入学料及び授業料免除に関する問合せ先

学務部学生支援課 電話043-290-2178

5 学生保健互助会費（疾病負傷の際に相互に救済し、進んで健康保持に寄与することを目的としております。）及び学生教育研究災害傷害保険料・学研災付帯賠償責任保険料（正課中、学校行事中、課外活動中、通学中における傷害事故に対して補償するものです。また、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したりした場合の補償も含まれます。保険料の改定が行われた場合には、改定時から新保険料が適用されま

す。)は、令和2年9月30日(水)までに郵便局又はゆうちょ銀行で払い込んでください。

詳細は、学務部学生支援課へ問合せてください。

電話 043-290-2220 (学生保健互助会)

電話 043-290-2162 (学生教育研究災害傷害保険)

6 外国人合格者で日本政府(文部科学省)国費留学生は入学科、授業料は必要ありません。

7 納入した入学科は、いかなる理由があっても返還しません。

8 入学手続完了者が令和2年9月30日(水)17時までに入学を辞退した場合には、申し出により既に納入済の学生保健互助会費及び学生教育研究災害傷害保険料を返還します。

(4) 奨学金制度

日本学生支援機構において大学院学生に対する貸与制度があります。

この選考は、学業成績及び研究能力、家庭の経済的事情等審査の上、日本学生支援機構に推薦するものです。

(5) 提出書類、その他入学手続上の詳細は、合格者本人に別途通知します。

【問合せ先】

〒260-8675 千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学亥鼻地区事務部学務課大学院係

電 話 043-226-2009

E-mail sah5234@office.chiba-u.jp (医科学専攻)

yakugaku-in@chiba-u.jp (総合薬品科学専攻)

電話での問合せは、9時から17時までです。

ただし、土・日曜日・祝日は除きます。

医学薬学府案内

1. アドミッションポリシー

千葉大学大学院医学薬学府は、医学薬学融合型の大学院として、医学・薬学並びに関連する専攻分野において、研究者として自立し研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うとともに、全人的視野に立った医療従事者、医学薬学の知識を持つ先端的生命科学研究者を育成することを目的としています。この目的の実現のため、十分な学力を基盤として、創成的医療と創造的医学薬学研究に積極的に取り組む学生の入学を求めています。

【4年博士課程】

(1) 先端医学薬学専攻

先端医学薬学専攻が求める入学者

先端医学薬学専攻は、医学・薬学並びに関連分野において創造的、先端的研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識、全人的視野を有する医療従事者、生命科学研究者を育成することを目的としています。この目的の実現のため、十分な学力を基盤として、創成的医療と先端の医学・薬学研究に積極的に取り組む学生の入学を求めています。

(2) 先進予防医学共同専攻

先進予防医学共同専攻が求める入学者

先進予防医学共同専攻は、従来の衛生学・公衆衛生学分野を基盤とし、新たな方法論として、オミクス情報からマクロ環境情報まで個人や環境の特性を網羅的に分析・評価し、教育研究分野や医療分野等で、0次予防から3次予防まで包括した個別化予防を実践できる人材の育成を目指しています。先進的な予防医学研究に熱意を持って取り組む意欲あふれる学生の入学を求めています。

【3年博士課程】

先端創薬科学専攻

先端創薬科学専攻が求める入学者

先端創薬科学専攻は、薬学並びに関連する専攻分野において、国際性豊かな独創的研究を展開し、医薬品の開発や臨床応用を通じて、人類の健康や福祉の促進に貢献する先端的研究者を目指す人を求めています。

【修士課程】

(1) 医科学専攻

① 医科学専攻が求める入学者

医科学専攻は、新たな学問体系を網羅する多様な知識を備え、科学の社会的役割ないし責任を正しく理解できる豊かな人間性を持ち、かつ21世紀の国民のニーズに応え得る医学・医療系の人材の育成を目指しています。この目的の実現のため、一般的基礎知識に裏付けられた広い視野と柔軟な思考力を持った学生の入学を求めています。

(2) 総合薬品科学専攻

① 総合薬品科学専攻が求める入学者

総合薬品科学専攻は、総合科学である薬学の高度な知識を身に付けるとともに、疾病の診断・治療・予防に用いられる医薬品の社会的諸側面を正しく理解できる人材の育成、さらにグローバルに展開する基礎から応用に至る医薬品開発研究を自立的に担う人材の育成を目指しています。この目的の実現のため、基礎知識に裏付けられた広い視野と柔軟な思考力を持った意欲ある学生の入学を求めています。

2. 教育課程及び担当教員等

医学薬学府の修士課程、4年博士課程及び後期3年博士課程は、それぞれ次の専攻・コースから構成されています。

修士課程

専攻	コース名	取得できる学位
医科学専攻	基礎医科学コース，展開医科学コース，社会医学コース	修士（医科学）
総合薬品科学専攻		修士（薬科学）

4年博士課程

専攻	コース名	取得できる学位
先端医学薬学専攻		博士（医学）又は博士（薬学）
先進予防医学共同専攻		博士（医学）

後期3年博士課程

専攻	コース名	取得できる学位
先端創薬科学専攻		博士（薬科学）

※4年博士課程においては、取得単位と学位論文の内容により、博士（医学）又は博士（薬学）のいずれかが取得できます。

学位論文の指導については、別表「指導教授別研究テーマ」を参照してください。

3. 課程の修了要件及び履修方法

修士課程

① 修了要件

34単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。

② 履修方法

単位修得の認定は、試験又は研究報告等によって行う。

1) 修士（医科学）の学位の授与を受ける場合は、特論は13単位以上を修得する。修士（薬科学）の学位の授与を受ける場合は、特論，概論12単位以上を修得する。

2) 修士（医科学）及び修士（薬科学）の学位の授与を受ける場合は、特別実験16単位及び演習4単位を修得する。

4. 大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例措置の導入について

大学院の課程においては教育上特別の必要があると認められる場合には、大学院設置基準第14条に基づき、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行う特例措置が認められています。

本大学院は、従来の医学領域及び薬学領域に加え、新しい医学薬学境界領域における学問に精通した研究者や高度の専門職業人の育成を目的として設立するところであり、この特例措置を導入し教育方法の弾力化を図り履修し易い環境を整備した上で、すでに教育研究の現場において活躍している人材やすでに社会の第一線において活躍している社会人を積極的に受け入れていく方針です。

教育方法の特例措置は個々の修学体制に応じ授業科目の履修及び研究指導の計画を設定しますので、特例措置を適用して受け入れられる体制は研究室単位又は年度毎で状況が異なりますので、この特例措置を受けようとする志願者は、事前に志望する指導教授に当該研究室の受け入れ体制を照会の上、出願してください。

(別表)

指導教授別研究テーマ

医科学専攻

備考 ※令和3年4月1日より担当変更予定

分野名(コース)	研究領域 指導教授	研究テーマ
基礎医科学コース	分子腫瘍学 金田 篤志	1. 発癌のエピジェネティクス 2. 細胞の発癌防御機構におけるエピジェネティクス 3. 環境要因に対する細胞のエピゲノム変化 4. エピゲノム異常を誘導する分子機構 5. 細胞のエピゲノム状態を改変する低分子化合物の開発と解析
	発生再生医学 斎藤 哲一郎	1. 神経系発生の分子機構の解析 2. 神経幹細胞の分化能の解析と制御 3. 神経細胞の個性獲得機構の解析 4. 神経回路網の構築と高次神経機能への役割の解析
	機能形態学 山口 淳	1. 脳梗塞急性期の神経細胞ストレス応答機構の解明 2. 脳梗塞慢性期の神経再生療法の開発 3. 筋萎縮側索硬化症(ALS)の発症機序の解明
	代謝生理学 三木 隆司	1. 糖・エネルギー代謝の制御機構 2. 分泌現象の分子メカニズム 3. 遺伝子改変動物を用いたインスリン分泌と作用の病態解析 4. 電気的興奮細胞の活動調節 5. 神経・内分泌細胞の細胞内シグナル間クロストーク
	遺伝子生化学 ※瀧口 正樹	1. 行動, 代謝, 神経可塑性の日周リズムの形成および制御機構 2. 脳の老化と神経変性疾患発症のメカニズム 3. 血管新生を制御する化合物の探索と開発
	分子生体制御学 (未定)	[未定] (以下は前任の指導教員の場合である。) 1. オーフアン受容体の新規リガンドの探索とその生理作用の解析 2. 血管作動性ペプチドの生化学・分子生物学 3. RGSによる循環器系GPCRシグナルの制御機構の解析 4. 遺伝子改変マウスを用いたp38MAPキナーゼの病態生理的機能の解析 5. 炎症性肺疾患における創薬ターゲットの探索 6. 神経幹細胞の疾患適用への分子基盤情報構築
	細胞分子医学 (未定)	[未定] (以下は前任の指導教員の場合である。) 1. 正常およびがん幹細胞システムの成り立ちとその分子基盤の解明 2. 造血幹細胞の自己複製機構の解明 3. 幹細胞研究の再生医療・がん治療へのトランスレーション 4. エピゲノムによる転写制御とエピジェネティクス

分野名(コース)	研究領域 指導教授	研 究 テ ー マ
基礎医科学コース	微生物資源学 (未定) 担当教員： 高橋 弘喜 (准教授) 矢口 貴志 (准教授)	1. アスペルギルス症など真菌感染症における病原性発現機構・感染機構の解析 2. 真菌、放線菌のゲノム解析，系統解析，分子疫学的解析 3. 病原真菌・放線菌と宿主の相互作用（受容体等）の研究 4. 病原真菌・放線菌の分子生物学的・化学的および形態学的手法を用いた統合系統解析および分子疫学 5. 分子生物学的手法を用いた病原真菌・放線菌の機能遺伝子・2次代謝産物に関する研究
	免疫制御学 古関 明彦	1. 哺乳類細胞の分化過程におけるエピジェネティック制御の役割の解明 2. ゲノム解析技術とイメージングを用いたエピジェネティック制御の分子メカニズムの解明 3. ヒト・リンパ球からのiPS細胞誘導と再分化技術の樹立 4. ヒト造血幹細胞自己複製と分化におけるエピジェネティック制御の役割 5. ヒト化マウスを用いたヒト免疫系の生体内動態のシミュレーション
	長寿医学 眞鍋 一郎	1. 生活習慣病における慢性炎症の分子機構 2. 組織マクロファージのエピジェネティック制御機構 3. 長鎖非コードRNA (lncRNA) 4. 臓器間連携による恒常性維持機構と病態 5. 心血管疾患・リンパ浮腫への新規治療法開発
	アレルギー臨床免疫学 中島 裕史	1. アレルギー性炎症の制御機構の解明 2. サイトカインシグナル伝達機構の解明 3. 気管支喘息の病態解明 4. アレルギー性疾患の新規治療法の開発 5. 膠原病における臓器障害機構の解明 6. Tリンパ球の分化・活性化機構の解明とその抑制による疾病制御 7. 自己免疫疾患の治療反応性予測 8. 自己免疫疾患の新規治療法の開発
	病原細菌制御学 (未定) 担当教員： 清水 健 (准教授) 八尋 錦之介 (准教授)	1. 病原分子の細胞内輸送システムと活性化のメカニズムに関する研究 2. 病原分子の脳細胞アポトーシスの誘導メカニズムに関する研究 3. ADP-リボシル化病原分子による情報伝達系攪乱のメカニズムに関する研究 4. 病原分子による組織障害のメカニズムに関する研究 5. 病原分子の活性制御法の開発と臨床応用に関する研究 6. 病原分子の簡便なスクリーニング法の開発と臨床応用に関する研究

分野名(コース)	研究領域 指導教授	研 究 テ ー マ
基礎医科学コース	分子ウイルス学 白澤 浩	1. ウイルスの分子疫学 2. ウイルス遺伝子の転写調節機構 3. 腫瘍ウイルスと宿主遺伝子の相互作用 4. 発がん関連宿主遺伝子 5. ウイルスペクター
	感染生体防御学 担当教員： 彦坂 健児（講師）	1. 寄生体のミトコンドリアに関する研究 2. 寄生体感染の新規診断マーカーの探索 3. 漢方が寄生虫感染に及ぼす影響に関する研究 4. 病原体の薬剤耐性獲得機序の解明 5. 寄生虫感染症の分子疫学 6. 感染症に対する生体防御の分子機構 7. 寄生体の体内移行経路・臓器特異性・接着機序の解析
	粘膜免疫学 (未定)	[未定]（以下は前任の指導教員の場合である。） 1. 腸管の感染，炎症状態における自然免疫の役割 2. 腸管粘膜固有層の自然免疫細胞群の解析 3. 粘膜免疫防御を付加出来る新規ワクチン，アジュバント開発 4. 腸管免疫におけるシステムバイオロジー解析 5. ゲノム編集技術を用いたマウス作成と新規免疫療法の開発
	免疫発生学 中山 俊憲	1. 免疫システムの形成と維持の生物学 2. Th1/Th2/Th17細胞分化とメモリー細胞での機能の維持機構 3. 慢性炎症のニッチェの研究 4. アレルギー疾患発症のメカニズムの解明と制御法の開発 5. がん免疫と治療研究
	免疫細胞医学 本橋 新一郎	1. NKT細胞の抗腫瘍効果に関する分子メカニズム解析 2. がん免疫細胞治療の臨床研究 3. がん免疫細胞治療に関するバイオマーカー探索 4. 治療用免疫細胞の細胞規格研究 5. iPS細胞由来NKT細胞を用いたがん免疫療法の開発研究 6. 樹状細胞を介した免疫抑制機構の解明
	疾患生命医学 幡野 雅彦	1. 発生工学技術を用いた疾患モデルマウスの作製と解析 2. 腸管神経分化の分子機構とその異常による疾患病態解析 3. 腸管神経系と免疫系の相互作用解析 4. 肺胞形成の分子機構と再生医療への応用 5. p38MAPキナーゼの病態生理的機能の解析 6. 炎症性肺疾患の成立機構の解明と細胞治療の開発 7. 成体海馬由来神経幹細胞のinvitro増幅法の開発と治療応用
	イノベーション再生医学 江藤 浩之	1. エピゲノム情報を基にした新規ヒト造血幹細胞増幅系の確立 2. エピゲノム情報を基にした血液腫瘍への創薬開発 3. ヒト血液系細胞を再生する人口骨髄の開発 4. 疾患iPS細胞を用いた創薬開発

分野名(コース)	研究領域 指導教授	研究テーマ
基礎医科学コース	臨床感染症学 亀井 克彦	1. アスペルギルス症を中心とした真菌症における病原因子と感染機構の研究 2. 真菌症の診断・治療法の研究 3. 真菌症の疫学及び抗真菌薬耐性機序の研究 4. 環境内の真菌の制御に関する研究（院内感染を含む） 5. 真菌に起因するアレルギー性肺疾患の研究 6. 輸入真菌症の疫学及び診断・治療法の研究
	感染免疫学 米山 光俊	1. 感染に応答した生体防御誘導の分子メカニズムの解明 2. ウイルスセンサー分子による非自己核酸認識の分子機構 3. ウイルスセンサーを介した細胞内シグナルとその生理機能 4. 遺伝子改変マウスを用いた真菌センサー分子の生理機能の解明 5. 遺伝子改変マウスを用いた炎症性疾患発症機構の解析 6. Th17細胞と3型自然リンパ球の分化・機能解析 7. 腸内細菌・真菌叢による宿主病態制御 8. 免疫細胞による腸管上皮細胞の糖鎖修飾誘導・制御機構 9. 微生物による感染と共生機構の解明
	免疫制御学 藤井 眞一郎	1. 自然免疫と獲得免疫の連結機構と細胞生存に関する研究 2. 樹状細胞を中心とする抗原提示細胞の分化，免疫シグナルに関する研究 3. 腫瘍免疫1（がん免疫抑制機構解明に関する研究） 4. 腫瘍免疫2（がん免疫賦活機構解明に関する研究） 5. がんに対する免疫療法の新規開発 6. がんに対する複合的免疫療法検討に関する研究 7. 感染症に対する免疫療法の開発
	免疫制御学 大野 博司	1. 腸管免疫における上皮細胞の役割の解明 2. 腸内細菌叢の生理的意義の解明 3. 細胞内小胞輸送機構の解明 4. 樹状細胞の免疫応答調節機構の解明と細胞療法への応用 5. 担癌宿主における腫瘍免疫機構の解明
展開医科学コース	薬理学 安西 尚彦	1. 新規トランスポーターの分子同定・機能解析によるトランスポーター分子標的治療薬の開発 2. トランスポーター機能制御の分子機構解明と「トランスポートソーム」修飾治療法の開発 3. 腫瘍特異的アミノ酸トランスポーターを分子標的とする新規抗がん薬開発 4. 腎尿細管尿酸トランスポーターを分子標的とする新規高尿酸血症治療薬開発
	薬物治療学 石井 伊都子	1. 高脂血症における薬物動態に関する研究 2. 血管の異常に関する薬物代謝の変化 3. 薬物の投与設計に関する研究 4. 薬物治療の個別最適化のためのPGX研究 5. 薬物相互作用に関する研究

分野名(コース)	研究領域 指導教授	研究テーマ
展開医科学コース	腫瘍病理学 池原 譲	1. 近赤外波長域 (1,000-1,800nm) イメージング技術の開発と、これを利用した画像診断学の創成 2. がんの浸潤転移に関わる分子の発現・機能制御メカニズムの解析と、これを標的とする診断治療薬の探索研究 3. 初期発生に関わる分子群の細胞分化・増殖・発がんにおける機能の分子生物学的解析 4. 遺伝子改変技術を用いた膀胱がんを発症するマウスの作成と、これを用いた発がんメカニズムの解明 5. モデルマウスを利用した検査診断ならびに、治療アプローチの開発研究 6. 解剖病理・外科病理
	診断病理学 池田 純一郎	1. 悪性腫瘍における幹細胞的性格を制御する因子の解析 2. 悪性腫瘍の病理組織学および分子生物学的解析 3. 悪性腫瘍の臨床病理学的解析 4. 悪性リンパ腫の臨床病理学および分子生物学的解析 5. 新規病理組織診断学的手法の開発 6. 細胞診断学的手法を用いた研究
	病態病理学 (未定) 担当教員： 岸本 充 (准教授)	1. 悪性腫瘍の生物学・分子生物学 2. 腫瘍の分化転換機構の解明 3. 転写因子による腫瘍の制御 4. 表現形転換に注目した基礎的生物学
	呼吸器内科学 (未定) 担当教員： 坂尾 誠一郎 (准教授)	1. 肺高血圧症の病態解析と治療戦略に関する研究 2. 肺血栓塞栓症の病態解析と治療戦略に関する研究 3. 慢性閉塞性肺疾患の病態解析と治療戦略に関する研究 4. 間質性肺疾患の病態解析と治療戦略に関する研究 5. 睡眠時無呼吸症候群の病態解析と治療戦略に関する研究 6. 胸部悪性腫瘍（特に肺癌，胸膜中皮腫）の病態解析と治療戦略に関する研究 7. 呼吸器感染症（真菌感染症，抗酸菌感染症を含む）の病態解析と治療戦略に関する研究 8. 呼吸器の再生医学に関する研究 9. 薬剤性肺障害を含む呼吸器疾患におけるバイオマーカー研究 10. アレルギー性肺疾患の病態解析と治療戦略に関する研究
	泌尿器科学 市川 智彦	1. シスチン尿症の責任遺伝子に関する遺伝学的研究 2. 腎癌，尿路上皮癌の遺伝子診断の研究 3. 進行性腎癌における腫瘍免疫の研究 4. 尿路悪性腫瘍における免疫組織学的研究 5. 前立腺癌における免疫組織学的研究 6. 前立腺癌における癌抑制遺伝子・転移抑制遺伝子の研究 7. 前立腺癌のアンドロゲン依存性喪失機構の研究 8. 遺伝カウンセリングに関する研究 ☆遺伝カウンセラーコースに出願を希望する者は，泌尿器科学研究領域に出願してください。

分野名(コース)	研究領域 指導教授	研 究 テ ー マ
展開医科学コース	生殖医学 生水 真紀夫	1. 絨毛細胞の機能分化・絨毛癌におけるエピジェネティック制御機構 2. 非侵襲的出生前遺伝子診断法の開発 3. 子宮頸癌・卵巣癌の早期診断マーカーと新規治療法の開発 4. 子宮体癌の内分泌治療法・妊孕性温存療法 5. 侵入奇胎の発症機序解明 6. 子宮筋腫・内膜症の原因に関する分子生物学的研究 7. エストロゲン合成酵素の研究（活性調節・系統進化） 8. 脳症小児麻痺の発生予防法の開発 9. 妊娠高血圧症の病態解明 10. 不妊症の病態解明と生殖補助医療の新規治療方法に関する研究
	医学教育学 伊藤 彰一	1. 卒前医学教育のカリキュラム・教育法・評価法に関する研究 2. 卒後臨床研修の指導法・評価法に関する研究 3. 学習者の学習・キャリア支援に関する研究 4. 卒前・卒後医学教育のIR（institutional research）研究 5. 教育・学習支援ツールの開発・研究 6. 教育者・指導者育成についての研究
	脳神経内科学 桑原 聡	1. 臨床神経生理学：ヒト軸索イオンチャネルのin vivo解析 2. 神経免疫疾患の病態解析と新規治療開発に関する研究 3. 神経変性疾患の分子病態解析 4. 軸索伸展促進を介する新規神経再生療法の開発 5. プロテオミクスによる神経疾患バイオマーカーの探索と病態解析 6. 臨床自律神経学 7. 神経原性慣性疼痛の病態と治療
	分子腫瘍生物学 永瀬 浩喜	1. 配列特異的DNA認識化合物による疾患治療薬開発研究（抗がん剤・抗生剤開発） 2. 薬剤による遺伝子発現スイッチ、細胞表現型の変更・多能性幹細胞の誘導研究 3. エピジェネティックスを加味した遺伝機構図（ジェネティック・アーキテクチャー）の解明 4. ヒト検体を用いたがんバイオマーカーの探索研究 5. 分子疫学研究、がん追跡調査（コホート研究）・がん登録の応用研究 6. 発がん・がん感受性機構に関する研究 7. DNA損傷、薬剤耐性に関する研究 8. 一細胞レベルでの腫瘍浸潤性抗腫瘍免疫細胞解析研究
	分子腫瘍生物学 筆宝 義隆	1. マウスオルガノイドを用いた各種臓器発がんモデルの確立 2. オルガノイド発がんモデルを用いた発がん分子機構の解析 3. 各種臨床検体からのヒト消化器がんオルガノイド培養とその解析 4. 各種臨床検体からのヒト婦人科がんオルガノイド培養とその解析 5. ヒト・マウスがんオルガノイドを用いた薬剤スクリーニング 6. 新規のヒト検体・臓器からのオルガノイド培養法の確立

分野名(コース)	研究領域 指導教授	研 究 テ ー マ
展開医科学コース	脳神経内科学 山村 隆	1. 多発性硬化症の病態解析 2. 多発性硬化症の新規治療薬開発 3. 多発性硬化症の病態マーカーの開発 4. 免疫性神経疾患の誘導に関わる環境因子の解析 5. 神経系と免疫系のクロストーク 6. 視神経脊髄炎（NMO）の病態解析と治療
	重粒子線治療学 山田 滋	1. 炭素線の作用機序に関する研究 2. 炭素線治療技術向上に関する研究 3. 炭素線効果の定量的評価と向上に関する研究 4. 炭素線感受性予測システムに関する研究 5. がんの遺伝子変異と炭素線治療効果に関する研究 6. 免疫・炭素線併用療法の開発研究 7. 画像診断による炭素線治療効果評価に関する研究 8. 炭素線による正常組織障害の治療・防護に関する研究
	内分泌代謝・血液・老年内科学 横手 幸太郎	1. 内分泌代謝病学 ①内分泌・代謝性疾患における転写因子制御と疾患エピジェネティクス ②骨芽細胞・破骨細胞機能制御と骨代謝性疾患 ③ホルモン受容体と核内シグナルによる生体調節機構と破綻の分子メカニズム ④糖尿病・脂質異常症・肥満症と合併症 ⑤動脈硬化症発症機構の解明と新規治療法の開発 ⑥生活習慣病に伴う慢性腎臓病の成因と治療 ⑦脂肪細胞を用いた遺伝子／再生医療研究 ⑧血糖クランプ法を用いたインスリン作用および抵抗性の機序の解明 2. 血液病学 ①急性白血病発症の分子機構 ②骨髄増殖性疾患における骨髄線維化の分子機構の解明 ③多発性骨髄腫の薬剤耐性機序の解明 ④同種造血幹細胞移植療法の確立 ⑤Crow-Fukase 症候群の発症機構の解明と治療法の確立 ⑥造血器悪性腫瘍における新たな血清腫瘍マーカーの確立 3. 老化・老年病学 ①早老症のメカニズム解明と治療介入 ②サルコペニア・フレイルの予防と新しい高齢者医療の開発
	小児病態学 (未定) 担当教員： 藤井 克則（講師）	1. 小児内分泌疾患の病態・診断・治療に関する研究 2. 白血病・悪性新生物の病態・診断・治療に関する研究 3. 小児循環器疾患の病態・診断・治療に関する研究 4. 小児膠原病及び先天性免疫不全症の病態・診断・治療に関する研究 5. 小児免疫アレルギー疾患の病態・診断・治療に関する研究 6. 小児神経疾患の病態・診断・治療に関する研究 7. 小児感染症の病態・診断・治療に関する研究 8. 新生児疾患の病態・診断・治療に関する研究

分野名(コース)	研究領域 指導教授	研究テーマ
展開医科学コース	循環器内科学 小林 欣夫	1. 心臓血管疾患の再生治療 2. 心不全・高血圧の病態機序の解明および新規治療法の開発 3. 血管の新生と老化 4. 循環器疾患の画像診断 5. 虚血性疾患，不整脈に対するインターベンション
	口腔科学 (未定) 担当教員： 鵜澤 一弘 (准教授)	1. 歯骨増生・吸収の研究 2. 組織再生に関する研究 3. 口腔耐性菌の研究 4. 口腔癌術後の再建に関する研究 5. 顎発育形成異常の研究 6. 口腔癌の遺伝子的研究 7. 口腔癌の治療法の研究
社会医学コース	公衆衛生学 尾内 善広	1. 医療費適正化にむけたレセプトデータ，特定健診診査データ等の突合分析 2. 川崎病の発症および重症化に関与する遺伝要因の同定とその臨床応用に関する研究 3. 先天異常における遺伝的要因の探索 4. 多因子疾患の遺伝疫学的研究
	社会予防医学 近藤 克則	1. 健康の社会的決定要因に関する研究 2. 介護予防から終末期ケアに渡る老年学的研究 3. リバビリテーション医学・医療の研究 4. 介護・医療関連情報の「見える化」の研究 5. 医療介護政策・サービス研究
	環境生命医学 森 千里	1. 環境中の化学物質の生殖系への影響 2. 精子形成機構の解析 3. 化学物質の胎児移行とそのメカニズム 4. 体内蓄積化学物質の削減方法の開発 5. 化学物質曝露指標のバイオマーカー検索 6. 未来世代のための環境健康科学 (サステナブル環境健康科学) 7. リスクアセスメント及びリスクマネジメント 8. 環境教育 9. ホルムアルデヒド曝露に関する研究 10. 化学物質削減住宅ケミレスタウンを用いた環境改善型予防医学の研究 11. 環境省「子どもの健康と環境に関する全国調査 (エコチル調査)」の追加調査研究
	環境労働衛生学 諏訪園 靖	1. 職域における健康管理に関する研究 2. 環境と人間との相互作用に関する研究 3. 有害物質の生態影響に関する研究 4. 微量元素の人体影響に関する研究 5. 職場におけるメンタルヘルスに関する研究

分野名(コース)	研究領域 指導教授	研 究 テ ー マ
社会医学コース	分子病態解析学 田中 知明	1. 疾患プロテオミクス 2. 遺伝子診断と遺伝医療システムの構築 3. 肝疾患の新しいバイオマーカーの開発と実用化 4. アルコール医学生物学 5. 検査の診断効率に関する医療経済学的検討 6. スプライシング異常の病態解析 ―診断・治療への応用― 7. 非アルコール性脂肪肝炎（NASH）の病態解析 8. 神経筋疾患の病態機序に関する遺伝学的検討 9. 質量分析技術の臨床検査への応用
	法医学 岩瀬 博太郎	1. 画像診断の法医学への応用 2. 薬物分析方法の開発と応用に関する研究 3. 寄生生物のDNA型解析による身元不明死体の出身地推定に関する研究 4. 疾患DNAの解析による突然死診断に関する研究 5. 過酸化脂質の各種病態への関わりに関する研究 6. 所謂無理心中（他殺後自殺）事例の収集とその傾向の分析に関する研究 7. 千葉県内のChild Death Reviewに関する研究
	医療情報学 (未定) 担当教員： 鈴木 隆弘（准教授）	1. 電子カルテシステムの構築 2. 医療情報の共有による地域連携 3. インターネット診療システムの開発 4. 巨大医療データベースの構築 5. 電子カルテへのテキストマイニングの応用 6. 診療支援システムの開発 7. 医療情報の医療経営への応用
	精神医学 伊豫 雅臣	1. 臨床精神薬理学 2. 精神疾患の病態解明とバイオマーカー開発 3. 精神疾患の治療法開発 4. 認知行動学 5. 司法精神保健
	認知行動生理学 清水 栄司	1. 動物の行動モデルを用いた、記憶・学習のような知性、不安・恐怖のような情動、意欲や動機づけなどの知・情・意に関する分子メカニズムの研究 2. ヒトの認知行動モデルに基づいた、うつ病・不安障害に関する認知行動療法の研究 3. ヒトの認知行動モデルを解明するための、脳機能画像および事象関連電位による高次機能研究 4. 恐怖消去機構の解明および「恐怖を忘れやすくさせる」治療薬の開発 5. 喉頭の発声・呼吸運動を生成する神経ネットワーク機構の研究 6. 医療・職域・教育現場における認知行動療法を用いた、全人的サポートに関する研究 7. IT（情報テクノロジー）を利用した、心の予防医学のための疫学研究

分野名(コース)	研究領域 指導教授	研究テーマ
社会医学コース	神経科学 橋本 謙二	1. 精神神経疾患のバイオマーカー 2. 精神神経疾患の病態解明と新規治療法開発 3. 即効性抗うつ薬 R-ケタミンの作用機序解明 4. 麻薬・覚せい剤精神病の病態解明と新規治療薬開発 5. 精神神経疾患のモデル動物開発 6. 脳機能における D 型アミノ酸の役割
	司法心理学 (未定)	[未定] (以下は前任の指導教員の場合である。) 1. 非行少年・犯罪者のアセスメント 2. 非行少年・犯罪者の処遇論 3. 非行少年への心理援助的関与 4. 非行と虐待の関連
	司法精神保健学 五十嵐 禎人	1. 医療観察法の運用 2. 触法精神障害者の処遇システムの国際比較 3. 精神障害者の人権擁護 4. 刑事責任能力の判定 5. 成年後見制度における能力判定 6. 犯罪者の心理学的アセスメント 7. 刑務所収容者の精神保健
	応用精神医療学 渡邊 博幸	1. 精神神経疾患・薬物療法手順の開発 2. 精神神経疾患における再発予防法の開発 3. 精神神経疾患患者への多職種サービスモデルの開発
	精神神経科学 岡田 俊	1. 広汎性発達障害の病態解明に関する臨床研究 2. 学習障害に関する神経科学的研究 3. AD/HD の病態と治療法開発に関する研究 4. 発達障害児の保護者のメンタルヘルスに関する研究 5. 小児副腎白質ジストロフィー症 (ALD) に関する生理学的研究 6. 発達障害児の行動異常モデルにおける基盤研究

(別表)

指導教授別研究テーマ

総合薬品科学専攻

備考 ※の担当教員は令和3年4月1日以降変更予定

研究領域 指導教授	研究テーマ
薬化学 根本 哲宏	1. 医薬品合成に有用な高効率分子変換法の開発 2. 合成プロセスの短工程化を実現する触媒的合成法の開発 3. 生物活性有機化合物の合成 4. エピゲノム異常制御の為に機能性分子合成
薬品合成化学 (未定) 担当教員： 荒井 秀 (准教授)	1. 遷移金属，希土類金属を利用する新反応の開発と不斉合成への応用 2. 脂質代謝関連物質の合成と脳機能解明および新規抗マラリア剤開発への応用 3. 生物活性含窒素天然物の全合成研究と医薬先導化合物の設計と創製 4. 新規複素環ライブラリーの開発を目的とする固相及び液相コンビナトリアル合成法の開発
生体機能性分子 (未定) 担当教員： 北島 満里子 (准教授)	1. 薬用資源植物からの新しい活性分子種（創薬シード分子）の追求（主に含窒素天然物の単離，精密構造解析，構造変換） 2. 有用生物活性天然物の合成化学研究（不斉全合成，化学変換，構造修飾，効率的供給法の開発） 3. 創薬先導化合物の創製（天然物・合成化合物ライブラリーを活用したメディシナルケミストリー研究，作用発現の分子機構の解明）
活性構造化学 石橋 正己	1. 生物活性天然物の探索と構造研究 2. シグナル伝達分子を標的としたスクリーニング，天然物ケミカルバイオロジー 3. 宿主免疫応答と関連した細菌感染制御の分子機構の研究，抗微生物活性をもつ天然物ライブラリーのスクリーニング法の開発
製剤工学 森部 久仁一	1. 固体医薬品の性質に関する研究 2. 固体分散系中での医薬品分子状態の研究 3. 有機化合物のメカノケミストリー 4. サブミクロン粒子の調製と性質の検討 5. DDS キャリヤーとしてのリポソームの研究
薬品物理化学 西田 紀貴	1. 動的立体構造解析に基づくタンパク質の機能解明 2. 構造計算に基づいた抗ウイルス薬の論理設計および化合物合成と活性評価 3. 計算機スクリーニングによる医薬先導化合物の探索と抗ガン剤の開発 4. 結合構造および相互作用解析を基盤としたタンパク質の分子設計 5. 細胞内 NMR 計測法を用いた生命機能解明と創薬への応用
創薬物性 池田 幸弘	1. 医薬品の新規物性評価技術に関する研究 2. 医薬品創製を目指した物性改善および改善戦略に関する研究 3. 医薬品生産に寄与する分析法・物性評価法の研究 4. 物性評価技術によるデバイス，非経口投与ルートなどアドヒアランス向上に関する研究 5. レギュレトリーサイエンスに関する分析・物性研究

研究領域 指導教授	研究テーマ
遺伝子資源応用 (未定) 担当教員： 山崎 真巳 (准教授)	1. 薬用植物における有用物質生産の機構と制御の分子生物学的理解 2. ポストゲノム科学の新薬用資源開発への応用 3. 高等植物の環境応答と関連した物質代謝の分子機構 4. メタボロミクスを基盤としたシステム生物学 5. 生薬と漢方の情報学的解析
生化学 伊藤 素行	1. 細胞間情報伝達機構 2. 神経細胞の分化と行動の発達機構 3. 細胞移動機構：形態形成とがん化 4. 細胞間情報伝達と代謝・老化 5. 老化と記憶低下
免疫微生物学 川島 博人	1. リンパ球体内動態と獲得免疫における糖鎖機能の解明 (1) 糖鎖合成酵素欠損マウスを用いた解析 (2) 新規抗糖鎖抗体を用いた解析 2. 新規抗糖鎖抗体を用いた免疫関連疾患治療の開発 3. 高機能化抗糖鎖抗体の開発に基づく抗腫瘍免疫の賦活化 4. アレルゲンの糖鎖修飾に着目したアレルギー疾患治療法の開発 5. ムチンの糖鎖修飾と腸内細菌に着目した大腸炎発症機構の解明
遺伝子創薬学 中山 学	1. ゲノム改変技術の開発と疾患モデルマウスの創出に関する研究 2. ヒト一般病の関連遺伝子同定のためのコンディショナルノックアウトマウス・パイプライン構築に関する研究 3. 神経系で発現する巨大蛋白質群の包括的機能解析に関する研究
分子画像薬品学 上原 知也	1. テクネチウム錯体の新規設計を基盤とする SPECT プローブの開発 2. 抗体やペプチドを利用した DDS 3. がん治療効果の早期判定および治療指針選定に有用な分子イメージングプローブの開発 4. ガリウムを用いた PET プローブの新規開発
予防薬学 小椋 康光	1. 生命金属科学・メタロミクス研究 2. 生体による金属元素の動態・代謝の分子基盤の解明 3. 生体微量元素の新規分析法の開発 4. 光化学反応の生体への応用
環境リスク 中島 大介	1. 多種・新規化学物質暴露の包括的把握・網羅的分析手法の開発に関する研究 2. 事故・災害時等の緊急環境調査手法の高度化に関する研究 3. 都市大気中の有害化学物質の長期トレンドに関する研究
環境リスク 小林 弥生	1. 分析毒性学的手法を用いた半金属元素の代謝機構の解明 2. 化学物質による健康影響評価のためのヒューマンバイオモニタリング手法の開発 3. 化学物質の曝露評価と生体影響

研究領域 指導教授	研究テーマ
薬効薬理学 *村山 俊彦	1. セラミド代謝系酵素群の分子薬理学的解析と創薬標的としての薬理学的検証 2. セラミド、スフィンゴ脂質やその誘導体の生理・薬理作用の解析 3. ニーマンピック病, 多発性硬化症, 特発性肺線維症 (IPF) などの希少・難治性疾患に対する治療薬の開発 4. 生体内情報伝達物質とその受容体, シグナル伝達機構, 細胞応答に関する研究 5. ホスホリパーゼの活性制御機構, 調節因子に関する分子薬理学的研究
薬物学 秋田 英万	1. 低分子・高分子の体内・細胞内動態制御ナノ技術の開発 2. 癌免疫療法・遺伝子/核酸治療・診断法の開発
生物薬剤学 伊藤 晃成	1. 薬物毒性発現メカニズム解明に関する研究 2. 薬物毒性発現リスク予測に関する研究 3. がん細胞内エネルギー代謝と薬物感受性に関する研究
分子心血管薬理学 高野 博之	1. 心不全の病態解明と新規治療法の開発 2. 心疾患モデル動物の開発と病態解析 3. 虚血性心疾患に対する再生治療の開発 4. 血管新生の分子機序の解明 5. 動脈硬化の発症および進展における炎症・免疫機構の関与に関する研究
社会薬学 佐藤 信範	1. 薬剤師及び薬局機能に関する研究 2. 後発医薬品の評価に関する研究 3. 医薬品情報の収集・評価・提供に関する研究 4. 小中高生への薬学的視点からの教育に関する研究 5. 薬事及び保険制度に関する研究
実務薬学 関根 祐子	1. 点眼薬アドヒアランスの評価に関する研究 2. 内服薬の服薬と嚥下能力に関する研究 3. 化学療法剤の血中濃度測定による適正使用に関する研究 4. 機能毒性学的評価によるポリファーマシー解消に関する研究 5. 薬剤師の健康サポート活動に関する研究
臨床薬理学 樋坂 章博	1. モデリングとシミュレーションを適用した臨床薬理学的研究 2. アルツハイマー病, メタボリックシンドローム等の疾患モデリングの研究 3. メタボローム解析を適用したガン増殖抑制に関する研究
医療薬学 石井 伊都子	1. 高脂血症における薬物動態に関する研究 2. 血管の異常に関する薬物代謝の変化 3. 薬物の投与設計に関する研究 4. 薬物治療の個別最適化のための PGx 研究 5. 薬物相互作用に関する研究

令和2年度10月入学 千葉大学大学院医学薬学府 修士課程入学願書

受験番号	※		フリガナ			男・女
			氏名			
			ローマ字氏名			
		生年月日	年 月 日生			
出願資格	大学 短期大学 高等専門学校		学部 学科 専攻科	年 月	卒業・卒業見込 修了・修了見込	
志願コース	志望するコースを○で囲んでください。 基礎医科学コース 展開医科学コース 社会医学コース		主たる指導を希望する 指導教授氏名			
現住所	〒(-) メールアドレス 自宅 TEL () 携帯 TEL ()					
履 歴 事 項	学歴	年 月 高等学校卒業				
		年 月				
		年 月				
		年 月				
		年 月				
		年 月				
	職歴	年 月				
		年 月				
		年 月				
		年 月				
賞罰						
保証人	氏名				続柄	
	住所	〒(-)				
試験・入学等に関する通知場所	〒(-) TEL ()					

(注) 1. 履歴事項(学歴・職歴等)は漏れなく記入してください。 2. 学歴は高等学校卒業から記入してください。
3. ※印の欄は記入しないでください。

振込証明用「貼付用（大学提出用）」貼り付け欄

出納印のある振込証明用を，はがれないようにしっかりと
この欄にのり付けしてください。

☐ クレジット決済 Credit card payment

令和2年度10月入学 千葉大学大学院医学薬学府
修士課程入学試験写真票

受験番号	※	フリガナ 氏 名		男・女	写 真 (4 cm × 3 cm) 最近3ヶ月以内に撮影のもので上半身、正面、脱帽のものを貼り付けてください。 (受験票に貼り付けた写真と同じもの。)
志望コース	志望するコースを○で囲んでください。 基礎医科学コース 展開医科学コース 社会医学コース	主たる指導を希望する指導教授氏名			
※印の欄は記入しないでください。				※ 出 欠	
				専門科目	※ 出 欠
				英 語	※ 出 欠
				面 接	※ 出 欠

----- 切りはなさないでください。 -----

令和2年度10月入学 千葉大学大学院医学薬学府
修士課程入学試験受験票

受験番号	※	フリガナ 氏 名		男・女	写 真 (4 cm × 3 cm) 最近3ヶ月以内に撮影のもので上半身、正面、脱帽のものを貼り付けてください。 (写真票に貼り付けた写真と同じもの。)
志望コース	志望するコースを○で囲んでください。 基礎医科学コース 展開医科学コース 社会医学コース	主たる指導を希望する指導教授氏名			

- この受験票は、受験の際に必ず持参してください。
- ※印の欄は記入しないでください。

令和2年度10月入学 千葉大学大学院医学薬学府修士課程入学願書

受験番号	※	フリガナ			男・女
		氏名			
		生年月日	年	月	日生
出願資格	大学 学部 卒業・卒業見込 短期大学 学科 年 月 修了・修了見込 高等専門学校 専攻科				
志望	(注)「指導教授氏名」は別表に示した指導教授の中から選択してください。				
	志望専攻		主たる指導を希望する指導教授氏名		
	総合薬品科学専攻		第1志望		
			第2志望		
第3志望					
現住所	〒() メールアドレス 自宅 TEL () 携帯 TEL ()				
履歴事項	学歴	年 月 高等学校卒業			
		年 月			
		年 月			
		年 月			
		年 月			
		年 月			
	職歴	年 月			
		年 月			
	賞罰				
保証人	氏名			続柄	
	住所	〒()			
試験・入学等に関する通知場所	〒()				
	TEL ()				

(注) 1. 履歴事項(学歴・職歴等)は漏れなく記入してください。 2. 学歴は高等学校卒業から記入してください。
3. ※印の欄は記入しないでください。

振込証明用「貼付用（大学提出用）」貼り付け欄

出納印のある振込証明用を，はがれないようにしっかりと
この欄にのり付けしてください。

☐ クレジット決済 Credit card payment

令和2年度10月入学 千葉大学大学院医学薬学府修士課程入学試験写真票

受験番号	※	フリガナ 氏 名		男・女
志望	(注)「指導教授氏名」は別表に示した指導教授の中から選択してください。			写 真 (4 cm × 3 cm) 最近3ヶ月以内に撮影のもので上半身、正面、脱帽のものを貼り付けてください。 (受験票に貼り付けた写真と同じもの。)
	志 望 専 攻	総 合 薬 品 科 学 専 攻		
	主たる指導を希望する 指 導 教 授 氏 名 (研 究 室 名)	第一志望 (	教 授 研究室)	
※印の欄は記入しないでください。				※ 出 欠
				基 礎 科 目 ※ 出 欠
				面 接 ※ 出 欠

----- 切りはなさないでください。 -----

令和2年度10月入学 千葉大学大学院医学薬学府修士課程入学試験受験票

受験番号	※	フリガナ 氏 名		男・女	写 真 (4 cm × 3 cm) 最近3ヶ月以内に撮影のもので上半身、正面、脱帽のものを貼り付けてください。 (写真票に貼り付けた写真と同じもの。)
志望	(注)「指導教授氏名」は別表に示した指導教授の中から選択してください。				
	志 望 専 攻	総 合 薬 品 科 学 専 攻			
	主たる指導を希望する 指 導 教 授 氏 名 (研 究 室 名)	第一志望 (	教 授 研究室)		

1. この受験票は、受験の際に必ず持参してください。 2. ※印の欄は記入しないでください。

令和2年度10月入学 千葉大学大学院医学薬学府修士課程
入学試験出願資格認定申請書

千葉大学大学院医学薬学府長 殿

貴大学院医学薬学府修士課程入学試験に出願を希望します。

ついては、出願資格の認定を受けたいので、所定の書類を添えて申請いたします。

年 月 日

志望専攻 _____

指導を希望する
教授氏名 _____

フリガナ
氏 名 _____ 男 ・ 女
(自 署)

年 月 日生

国 籍 (外国籍の場合は記入する)	
現 住 所	〒 _____ メールアドレス 自宅TEL 携帯TEL
連 絡 先 (勤務先等)	TEL _____
年 月 日	学 歴 (高校卒業から記入してください。 外国人志願者は、小学校入学から記入してください。)

※裏面も記入してください。

[illegible]

出願資格認定申請用

研究業績調査書

志望専攻氏名

公表論文・研究報告等の名称	発行又は発表の年月日	公表雑誌等の名称	備考（共著者名又は共同発表者名）
	年 月		
	年 月		
	年 月		
	年 月		
	年 月		
	年 月		
	年 月		
	年 月		
	年 月		

注 1) 著書名・発表者名は全員公表時どおりの順で表し，自分の名前に下線を引いてください。
2) 記入欄が不足の場合は，別葉に記入してください。